



①ホールボディカウンターを搭載したバス
②サーベイメーターで、体表面に放射性物質の付着がないかを確認
③バス内部の様子と全身検査のイメージ

本庁舎健康増進課 ☎2112

内部被ばく検査は、放射性物質（セシウム134・137）が体内に含まれているか、また、どれくらい含まれているかを調べ、おむね一生の間を受けるとされる放射線量を推計するための検査です。検査はまず、サーベイメーターで体表面に放射性物質の付着がないかを確認します。続いて、ホールボディカウンターで全身検査を行います（検査時間は合計で5分程度）。この検査で、機器等から放射線を浴びることはありません。なお、検査結果は約1か月後に自宅に郵送されます。

検査の概要と今年度の取り組み（予定）

4月に、市内の19歳から29歳までの希望者を対象とした検査を行いました。今後は、県から寄贈されるホールボディカウンターが、白河厚生総合病院（豊地）に設置される予定です。4歳到達児、妊婦30歳から39歳までの方の順に検査を行っていきます。

《今年度の検査の取り組み（予定）》

■原発事故による母子避難者等に対する高速道路の無料措置

健康不安から、地元と避難先で二重生活をしている家族の交通費負担を軽減するため、高速道路料金の無料化が行われています。

- 対象者（次のすべての要件を満たす方）
 - ①平成23年3月11日に本市に居住していた方
 - ②現在も世帯を分離して、二重の生活をしている方
 - ③避難している子どもが満18歳以下である方

- 対象車種
中型車以下

- 対象区間
母子等避難先の最寄りICから、父親等の居住地の最寄りICの区間（それ以外の区間や対象区間内での途中乗降の場合は無料化されません）

- 期間
平成26年3月31日（月）まで

<申請受付>
市役所本庁舎1階正面玄関ロビーで、随時受け付けています。

本庁舎地域支援課 ☎2111 内2255

「放射線なんでも相談会」で専門家のアドバイスを！

放射線の専門家のアドバイスが受けられる「放射線なんでも相談会」を開催します。放射能に関するあれこれ、気になることを解決する良い機会ですので、ぜひご参加ください。

- 日時 6月1日（出）午後1時～3時
- 会場 中央保健センター（北中川原）
- 内容 徳島大学白河市支援放射線アドバイザーが、個別相談に応じます。相談は無料です。
- 申込先 本庁舎健康増進課 ☎2112
※開催日の3日前までに、電話でお申し込みください。

<徳島大学白河市支援放射線アドバイザー>

氏名	専門分野
中山信太郎	放射線計測
佐瀬卓也	放射線防護
菅田栄一	歯科放射線
阪間稔	放射線計測
佐藤一雄	診療放射線
田中耕市	社会科学
西澤邦秀	甲状腺専門
坂口由貴子	放射線計測

「放射線計測技術を活用した支援をしています」
（チームリーダーの中山先生）



「疑問に分かりやすくお答えします。お気軽にお越しください」
（サブリーダーの佐瀬先生）



将来のためにも検査しておこう

念のため検査しよう。結果で安心したい

検査で少しでも安心してもらえたら

子どもが受ける前にどんな検査が知りたい

表郷地域でのホールボディカウンター検査の様子。受診者には検査前に、検査の内容や結果の見方などの説明が行われます。

◎連続掲載 未来へのたすき 放射性物質の内部被ばく検査

8,861人が実施 その結果は

本市でのホールボディカウンター検査（※1）は、平成24年3月から開始されました。平成25年3月までに、8,861人（4歳から18歳まで、妊婦、一部の地域の19歳から29歳までを対象）が受診しています。

用語集

※1 ホールボディカウンター

人の体内に取り込まれた放射性物質の量を測定する装置のこと。全身を対象に、人体から放出される放射線の量や種類を体外から直接計測する。呼び方は、全身カウンター、全身測定装置、ヒューマンカウンター、WBCなどがある。

※2 預託実効線量

成人では50年間、子どもでは70歳までに体内から受けると思われる内部被ばく量のこと。毎日均等量を継続して日常的に経口摂取したと仮定した最大線量を推定している。

県が行っているホールボディカウンターを使用した内部被ばく検査。この検査は、皆さんの放射性物質による内部被ばくの実態を把握するとともに、今後の健康管理を目的として、平成23年6月から県内で行われています。今月号では、本市での検査の実施状況と、概要などをお知らせします。

実情を正しく知る